

## 建設産業委員会会議録

平成 25 年 11 月 19 日 (火)

午前 9 時 25 分 開会

○小出義一委員長

ただいまから建設産業委員会を開会します。

報告案件、畜産臭気対策経過報告について、当局から説明をお願いします。

○折戸環境監

【資料に基づき説明】

○小出義一委員長

ご質疑ありませんか。

○中川健一委員

ありがとうございました。環境課がしっかり取り組んでいることが分かりました。職員及び公共施設における臭気測定について、情報公開しないということですが、その理由は何ですか。

○折戸環境監

農家さん側では営業自体の生き死に関係するということがあります。ただ、我々としては対策をすると言いながら、検証方法としてやらざると得ない為、今回の結果は検証したり、農家さんへ確認したりすることだけで使うということで、やっています。これが市報に掲載されたり、報道機関へ出たりすると農家さんの営業自体に関係するので、それはやめています。

○中川健一委員

その生き死というのが良く分からないのですが、今でも既に地元の人にはあそこではないか、とわかっていると思います。臭いのは牛舎のおかげだということもわかっている、それを生き死につながるというのは。特定の所が分かる訳では無く、半田市全体のことが分かるだけなので、どう生き死につながるかわからないのですが。

○折戸環境監

我々の使い方にもよると思いますが、臭気対策をやっているというのはご存知だと思いますが、こういうのを出すことによって、それまでこの地区は農家もあるし臭うものなんだと、納得されていた方も、市が臭う地区だと明言することにより、なんとかしないといけないのでは、となる。例えば臭いが改善されましたということであればいいと思いますが、マップなどで示してしまうのは、どうかということもありました。我々も、ある地区の測定値が 2 から 1 になった、などという情報は使い道がありますが、特定の地区を出すことについてはやめてほしいと言われており、我々もそうだなと考えています。

○中川健一委員

今、特定秘密保護法案というのが話題になっていて、僕はとりあえずこの 1 年はこれでいいと思いますが、未来永劫情報公開しなくていいのかということ、本当に生きるか死ぬかに直結するのであればもう少し配慮をしないといけないと思いますが、この情報公開は生き死にそんなに直結しないのではないかと思ったので意見を言っています。どこで公開するか、例

えば3年以内とするなど、決めるべきだと思います。これは畜産団体から公開しないでくれと頼まれて、市長から公開しなくていいと了解しているのでしょうか。

○折戸環境監

今回我々も臭気対策の姿勢として、臭気を無くすというのが大前提ですが、同時に農家さん自体を良くしていくという観点で、農家さんが悪いというではなく、農家さんを育成し守る意味でも臭気対策に取り組んでいます。また、はっきり環境基準を超えている訳でなく、でも臭いからという理由ですから、法に触れていない状態を、どう情報公開するのか、ということも判断の一つです。しかし、瞬間的に臭いが出る時は確かにありますが、そういったことを極力減らすことに取り組んでいますので、公表の仕方についてはどこかでする必要があるのかもしれませんが、まだどのようにするかは十分検討していかないと、どのような影響があるかわからないですから。ただ、農家さんに対する臭気の指導などは環境から入りますが、公表については慎重にいきたいと思います。内容は当然市長にも報告しています。

○中川健一委員

市長は公開しないということを知っているということですね。

○折戸環境監

内容は報告していますし、市長にも了解を得ています。

○中川健一委員

それは市長の考えでもあるということが分かりました。僕は農務課の意見はそれでもいいと思いますが、環境監がもう少し市民サイドに立ってもいいと思いました。

○小出義一委員長

他にありませんか。

○新美保博委員

公表について僕はどちらでもいいと思っています。敢えてしない方がいいと思います。興味のある人が調べればいいと思います。なぜかという、公表することによって風評被害がでるおそれがあるからです。そういうことも考えなければいけない。それで、今の推進監の立場の考え方は、なにか違うな、と。組合は畜産の糞尿の対策をしている訳でしょ。間違いなく原因はそこから出ている、それを何とかしようというのは行政でもなく市民でもなく、原因である人たちが一番真剣に考えてくれなければ困る訳です。昔から臭いはあったと。土井山や大矢地は住んでいる人たちが分かっている住んでいます。今でも臭いがどうのこうのという考え方があるなかで、やはり臭いは少しでも減らそうよと言えば、組合は反対するのではなく、原因はどこにあるのか、どこまでの範囲に臭いがあるのかという調査や、例えばこういうことをやったら改善されるのではないかとということを積極的に参加してくるぐらいのことはしないと。いろんなことをやっているが、環境課は迷走しているなど何がやりたいのかいまだにわからないだろう。いつごろ臭うのか。どの地区にあるのか。どういう臭いなのかかわからないから、このペーパーだなど。いずれ結論はでるでしょう。出た時に何をやるか。この機械を付ければ消臭できる、この薬をまけば消臭できる、そういうのをずっとやっていくのか。やはり元から断たなければいけないし、元を断つのが組合だとするなら、もっと組合には積極的に参加してもらいたい。

臭いといっても酢の匂いでも嫌な人は嫌なんだよ。昨日テレビで過齡臭という言葉が流行っているのをやっていて、今は30代、40代の若年層の臭いが問題になっていて、マダムという会社が研究開発をしているそうです。今はそういう幸せな時代です。今そういう時代、臭いはそれだけ訳がわからないものなんだよ。例えば男の汗臭い人が嫌な人もいれば、女性の香水が嫌だという人がいる。半田市としては原因、発生地、雨降りや湿度などを承知できれば対応できると思うので、その為に今段階を踏んでいかないと、いつまでもあれをやり、これをやりではいけない。原因が分からなければ対策を打てない。もっといえば何をやるにもお金がかかる話なので、ちょっとしたお金ですぐできることも前提。そういう方向性、目標をつけないといけないのではと思いました。とりあえずの感想です。

○小出義一委員長

今のはご意見ということでしたが、これに対し何かありましたらお願いします。

○折戸環境監

我々の方も先ほど新美議員がおっしゃったように日にちや湿気の多い日、風向きを臭気の測定の中で取り入れたいと思っています。ですが、委託を使って調査をしようとする、専門員になりますので、この日、と特定しないとできません。そうすると、その日に臭いが出ていなかったということもあります。今、我々の議論の中で出てきているのは、毎月何日と決めて、その日が雨だろうが晴れだろうがやっていくという形のものと考えていく。またどう風にも臭気の測定を考えていくのかは我々の中でも課題になっています。そこら辺をつかめないと、農家さんにこれをやってくれ、という時に次から次へ違うことを言えば信頼を無くすと思います。農家さんに入っていく際には我々もある程度のビジョンを持ってこれだと思っていかないといけないと思っています。どれに効果があるのか、また農家さんが続けてやっていける手間とコストか、そういうことを検証しておく必要がありますので、今は抜本的な改革というよりもアンテナを広げ、何がいいのかを分析、対策を考えることを集中的に行っています。新美委員の言われるように方向性はばちっと決めきれず、迷走している状態です。

○小出義一委員長

原因を追及して目標をしっかり捉えた取り組み方をしてほしいと新美委員も言って見えたと思います。私もそう思いますので、そういう姿勢があるのかなのか、今後そういう方向に向かっただけなのかということをお答えいただくのがポイントかなと思いますのでそういう観点でお答えいただければと思います。

○折戸環境監

我々も新美委員の言われるおっしゃる通りだと思いますので、方向性を決めて取り組んでまいりたいと思います。

○小出義一委員長

よろしくをお願いします。

○新美保博委員

マダムではないけれど、臭気を嗅ぎわかる資格があるんですね。緊急雇用で雇ったらどうですか。歩いてもらえば、臭いが変わる所があります。そういう資格を持った人がいるな

らば、マンダムの人は年間 100 人から 200 人の男の臭いを嗅ぐそうです。そういう人に臭いの分析、糞尿かどうか。どのあたりまで臭うかどうか。職員の人で出来るのならばそれでいいですが、環境監が月曜日はやって、課長が水曜日やる、と人が変わると度合いが違うので、一定の人がやるといいと思いますが。迷走しているようだから提案します。

○間瀬環境課長

資格を持っている人ではありませんが、今エイゼンにお願いしているなかで、臭いを嗅いでいただいて、どこが一番臭うか、などを調査していただいています。ただ、どこが一番臭うかはみなさんわかっていると思います。ただ、何を行うと臭うか、そういう時に一気に発生する臭いを減らすだとか、そういう方法を考えたい。

○小出義一委員長

専門家ですか。

○間瀬環境課長

専門家ではないです。

○新美保博委員

一番分かっている人は酪農家が一番分かっています。自分たちが何をやった時に、臭いがでるかは分かっています。その周りの人たちも住んでいる人は分かっています。太い線でビシッと臭う、臭わない、を分けることはできないと思います。だったら酪農家にも協力してもえばと思います。

○間瀬環境課長

この説明のなかにもありますが、酪農組合と県、半田市でワークショップという形でグループ討議を行って、どこが臭っているのか、何をやっている時に臭うのか、どういう時間帯が臭うのかは、みなさん大体分かっている、そういうところでこういう所に注意しましょうという意見は出し合って、ワークショップが終わった後にグループで発表していただいて、みなさんこういうことを守っていきましようとしています。それから臭っていない牧場も確かにあります。そういう所で何をやっているのか、みんなで見に行くなど、良いところを取り入れ、悪いところを排除する取り組みを行っています。そういうことで協力はしています。

○小出義一委員長

他にありませんか。

○中川健一委員

だけど専門家を雇ってはどうか、という点ではやるならやった方が僕はいいと思います。例えばワインを嗅ぐ専門家はどこの畑のブドウかということが分かっています。それだけ専門家の人は臭いを嗅ぎ分けますので、そういう人を連れてくればこれほどこの牧場から来ているんだ、とかどこの牛舎からきているということがわかるのではないかと思います。予算も近いことだし、ここで一致すれば臨職で雇うこともいいよとなる訳だし、やってみたらどうですか。

○間瀬環境課長

今、大同大学の研究の中で、離れたところと、農家のすぐ横の臭気をとって、成分分析を

行っています。それで何が原因かを調べ、来年度予算になりますけれど、追及を進めたいと思っております。

○中川健一委員

レポートの最後にあるバイオマス資源の部分ですが、これは過去にも建設産業委員会で議論をしたこともありますし、先進事例である東海市の井上牧場も特別委員会で視察に行きましたし、事情があつてやれないと思っていたのですが、これはやろうと思つてできるものなのでしょうか。予算がつけばやれるものなのか、物理的にやれない要因があつたのかどちらかだけ教えていただければと思います。

○折戸環境監

平成19年の時にバイオマス構想のことを特別委員会の課題でご提案していただいているのですが、実際行おうとすると企業さんがやらなければならないということで、最大のネックは最後の液肥をどうするかということでした。下水に流す為にはかなり希薄する必要があり、料金が高くなる。北海道や九州であればまくことができるのですが、半田市には液肥をまく場所が無いということでした。今、国も力を入れていまして、企業さんでバイオマス発電をやろうという動きがあるものですから、その際に多少なりとも畜産の糞尿を入れた状態でやるのであれば市もバックアップするのでどうか、という基本構想でやっています。ですので、今までの検討したことを踏まえ、それをなんとか日の目を見させることが出来ればと考えてやっているところです。

○榊原市民経済部長

要は売電価格が以前よりもあがっていることと、技術が進歩していることで可能性が出てきたということです。

○小出義一委員長

他にありませんか。

【発言するものなし】

○小出義一委員長

ないようですので、これで報告案件を終わります。

暫く休憩します。

午前10時05分 休憩

午前10時12分 再開

○小出義一委員

委員会を再開します。閉会中の調査事項についてを議題とします。9月定例会、分科会と期間があいてしまっていますが、今回は今後当事者となる方たちと意見交換をする為にも建設産業委員会としてJR半田駅前地区でどのような場所を残したいか、半田らしさがある場所についてどんなイメージがあるかをまとめようということになっていたと思います。みなさんに調査していただいて地図にマークしていただいたものを配布しております。この中からどんならしさのイメージを持っているかをすり合わせておくことが、この委員会を進めていくうえでも大事ななと思いますのでご協議いただきたいと思います。

重複しているところがいくつかありました。主にはみゆき通り、運河沿いはもちろん、運河沿いと、酒の文化館や酔の里への通り、中村町の部分は残したいということを皆さんが回答していただいています。そして西の方、JRへの動線そういったところの景観を残していきたいという意見がありました。こんなことを基準にして、らしさをのこしたいと言葉で残せられればと思います。他に気付いたことも含め、ご意見いただければと思います。

○新美保博委員

これでなにがしたいの。

○小出義一委員長

暫く休憩します。

午前10時15分 休憩

午前10時28分 再開

○小出義一委員長

会議を再開します。残していただける建物と危ぶまれる建物といろいろあり、末広、松華堂など複数挙がっていましたが、このみゆき通りの景観は運河に続く道なのでみなさん大事に思っているということでした。今、何も補助するものがないので、個人の管理に任されているので、そういうことも含めて今後どうしていくのかということがポイントかと思いません。重点地区を広げるということも意見にはありましたが、そんなことも含めご意見をいただきたいと思います。

○新美保博委員

エリアはわかりました。黄色で塗ってある所の景観を守る為にこれから何ができるのか。去年の建設産業委員会は空き家と老朽化建物を調査しましたが、個人の建物に、古いから建て直せとは言えないというのと一緒に、これも残したいか残したくないかは所有者の思いであり、板塀が良いから残してくれ、というのであればなんらかの補助はしなければならない。ブロック塀やフェンスのところにそれをやるのは無理な話だと思うけれど、そういったところが行政として、建設産業委員会として言えるのか言えないのかというところ。残したいという希望をとりまとめ、はっきりしておかないと、よその建物に対しそんな御無礼なことができるのか。

○小出義一委員長

残したいということで一部の地域が重点地域とされていながらも補助制度は利用されていない、という使い勝手の悪さもあり、そういったことも含め見直すことで景観形成をしていくことができるのかどうか。していかなければならないとも思いますので、そういう先進事例を参考にして調査するのも一つの方法かなと思います。

○中川健一委員

ここでも一度紹介した「まちづくりと景観」という本で、142頁に自治体と景観政策という頁があります。ここで著者が次のように言っています。行政として何が出来るかということで、政策内容としては次のようなものに関することがあげられます。都市全体の景観像の原則と将来像、都市構造と土地利用計画、建造物の高さや形態、色彩などに関する原則とルール、景観に良好な影響を与えるデザインの推奨と誘導、コミュニティの育成と建築協定・

地区計画などの誘導、伝統的建築などを中心とする景観地の保全、不良建造物・不良広告物などの規制排除、市民による景観形成の積極的な支援、景観についての助言や判断を行う公正で専門性を持つ機関の設置、景観協定とアーバンデザインの実行組織とスタッフ養成、景観の向上に寄与する建築物や団体・個人の表彰、これら様々な手法を政策として組み合わせ、実現していくことは市民に支持される、と書いてあるのでこういうことではないかなと思いますが。

【発言するものあり】

一つの教科書として書いてあることなので、こういうことを踏まえて具体的に何ができるかを検討していけばいいのではないかと思います。

○小出義一委員長

方向を示して景観に対する考え方、基準を示して、共感していただいて、市民が同じ方向を向いて結果としてにぎわいを作っていこうとなれば、景観形成の意味合いは大きいと思います。一緒に動いてくれば、民意を反映してという行動にもなると思います。現状はなかなか積極的に補助制度を活用した事例もないので、補助制度が悪いのか、啓蒙といいますか、PRが問題なのか、いずれかわかりませんが、そういうことが改善できるようなまとめ方が委員会としての方向と考えますがいかがでしょうか。

○沢田清委員

やはり、お知らせして、市民の意識がどう関わっていくとか、レベルをあげるというのか、まちづくり勉強会などでいろいろやっていますが、例えば市民と一緒に景観づくりをして成功している事例だとか、半田の規模と合うような所を見ているのはあるかもしれないし、今委員長の言われた部分については景観について、そのこの地区に住んでいる人、先ほど新美委員も言われましたが、住んでいる人がそう思わないとなんにもならない、ということへの対策を考えた方がいいと思いました。自分のイメージをいってもそのイメージ通りにはならないという基本的なことを思いましたね。

○小出義一委員長

事例ですけれども、たまたま豊橋の二川宿、前に文教厚生委員会で資料館を見学に行ったことがあります。その資料館ができたのは2000年くらいだったと思いますが、そのあと宿場町を復元しようという取り組みがあって、景観条例はもともとあったようですが、地元のまちづくり委員会のようなものが協定を結んで立ち上げて景観がよくなってきた。写真も撮ってきました。もともとあった市民ニーズを先導した形で景観形成ができて、先週の日曜日は大名行列のイベントをやったということでした。景観で賑わいをつくるということも、二川だけでなくいろいろな所があるのかな、という気もするので、そういった方向でまとめていくのも一つかなと。もちろん制度ができたから云々ではなく、どう気運を盛り上げてきたのか、というのがポイントであると思います。

○新美保博委員

できればこの問題はボールを投げる側でいいと思う。こういうことをやったらどうだという提案型で、判断するのはそっちだよ。提案をしてそれを決めるのは住民のみなさんだよ、とやった方がいい気がします。その為の協力は惜しまないし、運動でもなにかやるんですけど

ら、やりましょうと。ここは行政サイドが手を挙げて旗を持って、みんなついて来いではやれないはなしなのかなと思います。なぜかという市民ニーズがない。まだ、聞いていないのかもしれないけど、市民ニーズがあるとは思えない。もっと言うと何にも困っていない。問題とも思っていない。みんな問題や不具合があれば、こうしてくれ、ああしてくれと、それをどういう風に変えていくのかというところへ行くのだろうけど、今、住んでいる人たちがそういうことを思っていない、ある意味幸せな街だよね。そういうところに新たなものを作り上げるというのは非常に難しい話で、決めるのはそちらのほうがいいよなど。建設産業委員会はどのようなスタンスでいくのかという、余計なお世話と言われるかもしれないけど、余計なお世話を提案しておいて、半田市の街並みとしてこうしたらどうですかと。でも決めるのはみなさんですよ。というところへ持っていかざるを得ないのではないかと思います。補助金の使い勝手ではなく、直す気が無い、今困ってないのだから。台風が来て屋根が吹っ飛んだわけではないから。板塀はいいけれどもそれをやる為には土地を広げなければならない、固定資産税は払わなければならない、いろんなことを考えていくと、今のままでいいという話になっていってしまう。ここをそうではなく、僕らが住んでいる街はもうちょっと景観的に、少なくとも半田市の中でもいい街並みだよと言える場所へ意識が持てるよう提案することだと思う。具体的にこうした方がいいよ。正直言うと思いつかない。できれば当局のほうで、どういうまちにしたいのか、どうですか、と言った方がいいような気がします。

○小出義一委員長

新美委員の言われるような視点で事例がないのかなと、探したうちの一つが先ほどのものですが、他にもありますが、副委員長にも調べていただいていますので、いくつか景観形成について共通意識を持つことによって街並み、にぎわいをつくっていているところも実際にあるように思います。もう少し突っ込んでみないと分からない部分もありますが、糸口はあるなど。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

古い建物を補修したり、新しく建てる時も景観を守りながら条例の中で建てたり重要な建物は市が買い取って改築したりする事例もあると思いますが、できるだけ市民参加といたしますか、市民が意識をもってまちづくりをしてくれた事例を探したいと思います。

○新美保博委員

半田市が末広を買うのか。買わないでしょ。今の街並みに何にもお金をかけなくて賑わった事例があるかを聞きたい。それがあったら紹介して。立て替えて新しくつくって賑わったのを聞いてもしょうがない。

○岩田玲子副委員長

お金をかけて、都市整備関係をして賑わったところしかないです。「うだつのあがる街並みをつくろう」とか、都市整備関係と一緒にイベントプランナーが入ったりとか、街並みのプランナーが入ったりとかしたところしか賑わった所は無いです。

○新美保博委員

都市整備関係ということはお金をかけたということですよ。区画整理だとか、そういうと



ころの計画があるところから、要するに面整備をして建て替えた。

○岩田玲子副委員長

そういったところの事例としては補助金も1,000万円が最高額だとか、そうでなくても、蔵でない場合は700万円、伝統の現代版であれば500万円など補助金もすごく多くて、そういう意味ではお金もかかりますし、外見だけでなく、中身も一緒に行っていかなければ活性化はしませんし、全部のまちがそのようにやっています。私が調べたところでは、長浜市、富山市、高岡市、栃木市、川越市といったところですが、全てが外見と中身を両方やってお金をかけています。

○小出義一委員長

そういった中でも伝統的建築物群保存地区という文化庁の補助が付くものがありまして、今、全国で104件指定があります。補助を貰う為の要件を備えていないと、簡単には指定が下りないものですが、指定を受けていなくても活性化できた事例、このリストに該当しない所も、調べていく中でいくつかありましたので、そういう所の取り組み方、例えば地元とどのような連携をとったか、などの事例研究ができればいいなと思います。

○新美保博委員

まちづくり勉強会は地元の人と景観のことで話し合いをしているでしょ。

○柘植都市計画課長

半田運河の周辺につきましては重点地区を指定する際に協議会をつくりいろいろ話し合いをさせていただきました。JR駅前全体ということになりますと、まちづくり勉強会の中で、多少景観の話はでたかと思いますが、それをテーマに議論したことは無かったと思います。

○新美保博委員

例えばそういった会議の中で、ここの街並みはどういう風にしたらいだろうか、景観はどうしたらいいだろうかという話をすれば、こういう街並みがいいよね、といった希望はできると思います。ただ、自分でお金をかけてやるかと、言われれば、きっとやだねとなる。自腹を切っても塀を変えとか、街並みを変えするという意見がここでまとまるかどうか。大前提を自腹でやるという覚悟がある中で、たまたまやったら補助金がついた。補助金はプラスアルファという意識でやっている事例があればそれを見てみたい。一番勉強になると思う。

○小出義一委員長

一つの事例ですが、飛騨古川の方が、昔は鉱山があって街並みがあったのですが、戦後まで続いていた訳ではなく、30年くらい前に、それを残してまちづくりをしようという方がみえて、その方は商工会議所関連の方だったと思います。商工会議所でデザイン賞を設けて、既にその賞をもらった方が180件以上あって、30年前からずっと継続している訳ですが、その後おいで景観条例などもできて、補助する形で賑わいづくりをしてきた事例もあるので、もともとニーズがあったかなかったかという点では、そういうものを発掘した人がいた。ということで街並みをつくってきた事例があります。イコールのことができるかどうかは分かりませんが。

○中川健一委員

僕は新美委員が言われるように、住んでいる人たちが担当ないし、主体的にやってくれなければ、しょうがないことなので、それはそれでいいと思います。ただ、我々としてはこういう提案がしたいというのをちゃんと決めないといけないので、具体的に建物の何を残すのかということ、今回みんなで見て、末広、松華堂、日の出食堂などは残すとか、ミツカン半田と愛知県でお金を出して修形するのでいいとして。現状の景観形成重点地区に入っていないこの周辺のものとか、景観形成重点地区に入っている半六邸や光照院などいろいろ建物がありますので、そういうのをどうやって半田市がこういう風にしたいと思う街並みに賛同していただけるのであれば、補助金もある程度出して、その方向に協力していただくというようなことが、とりあえずこの地域に関してはできるようにしていかなければいけないと思います。

○岩田玲子副委員長

美濃市のことなんですけど、そういった街並みを教育委員会が保存の観点から文化財保護として整備関係をすることによって、お客さんが来るようになったという話でした。例えば、イベントプランナーをうつの一つの方法だと思います。都市整備関係や、文化財保護というような地域にしまえば、そういうことも可能かだと思います。

○小出義一委員長

いくつかの手法で伝統的建築物群保存地区もあるかとは思いますが、宝くじ買うような話を頼りにしていてもいけないと思いますので、大規模でなくてもいくつかの考え方、切り口で取り組んでいる事例を少し紹介させてもらっていますが、詳しく研究しながら、半田市で活かしていける手法を取り入れていくという方法で調査・研究をしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○小出義一委員長

新美委員は市民ニーズがあるかないかというところが一番ひっかかっているのでしょうか。

○新美保博委員

話がごっちゃになっているのを整理しているだけです。景観形成をすると賑わいが増えるなんて思っていたら大間違いではないか。

○岩田玲子副委員長

それは外と内の話で両方やっていかないといけないと思います。中身についてはいろんな市の調査をしましたが、美濃の場合は静岡のイベントプランナーに依頼し、美濃和紙あかりアート展を全国のコンテストとして募集して30年やっていることからどんどん活性化しました。もう1つの富山市岩瀬地区の例としては芸術のイベントを富山芸術大学の先生と一緒にやっていることにより活性化しています。

○小出義一委員長

岩瀬地区はもともと水産業が盛んでした。

○岩田玲子副委員長

景観形成は、都市計画課と一緒にやることによって、外から重要伝統保存地区ということで保存してやっていきながら中身をやっていく。外と中を一緒にやっていくことが重要だと

私は感じたのですが、私はJ Rの開発に合わせて、一緒に都市整備関係をやったほうが進むのではという認識でした。文化財保護、とか保存地区という観点で街並みを残していくという所が多かったです。中身に関しては例えばですが、長浜市では外の整備と同時に西郷真理子先生という人が後押しすること市民を巻き込んで街が賑わいをうみだして、今の長浜があります。

○小出義一委員長

ハードの部分はお金があればできるのですが、どうやって生かすか、というところを西郷先生が指導して地域の方がどんな組織を作ってどんな能力のある人が動いたかはわかりませんが、力を引き出して活性化したという話です。景観条例も大事ですが、景観を整備して何をするのか、どういう仕掛けがあるのかというところをこれから勉強していかなければならないのかなと。それを調査して半田市に生かす方向だと考えています。

○新美保博委員

それができるのか。議会のイメージはおかげ横丁のイメージでしょう。単純な話だ。賑わいを作るならそれでいいのかもしれない。例えば末広を開放して誰かに頼んでイベントを打つ、それだけでいいならそれで終わる話。でもそれは街並みにはならない。にぎわいと景観は全然離れている訳ではないけれど、異質なものだから、どこを重点的にやっていくかと言えば、景観形成というなら、どういった街並みで市民の協力がなければやれないことだけでも、こういう街並みにしたいんだということは言わなければいけないと思う。じゃあどういいう街並みにするのかはある程度決めておいて、そこに何ができるのか、どうしたら賑わいが生まれるのかを考えていかないと、どっちつかずになり答えが出せなくなるのではないか。

○中川健一委員

景観形成に主力を置いた方が、今のところそれが問題じゃないのかなと思う訳ですから。確かにやるなら一緒にやらなければならないと思いますが、景観形成の無い中に賑わいづくりをやっても駄目なものですから。そういう観点でやっていかないと、ぼけてしまう。

○小出義一委員長

これは行政だけでやっていくことではなくて、市民が景観形成をどう捉えて形成出来ていくのかということになりますので、その辺りの仕掛けづくりをどう進めているのか、そんな事例を研究したい。

○新美保博委員

この地区でおかげ横丁をつくりたい、と言った時に手を挙げる人はいるのかな。

【発言するものあり】

○鈴木好美委員

いろんな形で委員長の話をされたのですが、いろんな所で景観に対してまちづくりが発展しているところは当局側にこういう街並みを3種類くらいのレイアウト、形にしてもらおう。例えば横丁みたいな街並みなどを、市民に渡している地域もあります。こういうのはいかがですか、と。今話した中で残したいね、となった建物はたくさんありますが、古いものはどうするのか、建て直すのか、お金を使うのか、このピンク色の所の建物のレイアウトを2つか3つ、簡単に作って、横丁みたいなもの、J Rをメインにした街並み、それにプラス残し

たいものはこうなんだけれどもとして、アンケートを取った地域もある。こういったことはできるのでしょうか。例えば赤レンガはこのようになりますよと、市役所もこのようになりますよと示していると思うのですが、何も無く、頭の中でイメージするのはどうなんだろうと、ある程度当局側でどうなのかなと。

○新美保博委員

建物のレイアウトを作るのではなく、街並みのレイアウトを作るということですよ。

○中川健一委員

名古屋銀行半田支店の前から日の出食堂を見て、どんな街並みになるのかな、ということですよ。

○小出義一委員長

鈴木委員、その事例というのはどこなんですか。

○鈴木好美委員

ネットで検索したら出てきたのだと思います。街並みで調べたと思います。

○小出義一委員長

具体的にイメージがわからなかったもので。香川県にしても飛騨古川の話にしてもイメージが伝わらないので。今の事例にもどこそこの街、成功したかどうかがあると、使える話だと思います。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

景観形成ガイドラインの中に半田市もビジョンは出来ています。半田運河周辺のイメージはできています。一体となって、これを西に広げる駅から見た時の景色がこれと連動するようにつくるのはどうだろう。板塀で修理をしていながら、にぎわいをつくってきた例もある。全く、景観形成だけで終わってしまうのは具合が悪いのかなと思います。

○沢田清委員

委員会としてこうなるから、先に景観をやろうということ、賑わいをつくるために、これが大事なんだというところをみなさんがどう思うか。

○中川健一委員

僕はそれができればいいと思います。

○榊原伸行委員

私は新美委員が言われた内容を借りますが、やはりそこに住んでいる地域の人々のやる気、住んでいる人の視点から、見る、商店を営む人から見るにぎわいづくりは全く違うと思うのですから、その辺の考え方を知りたいと思いますので、視察に行くのでしたらそういう人たちがどういう考えを持ってこの駅前を盛り上げていくのか、というのと、行政から見ると補助金を含めてどのような関わり方をしていくのか、あとは、副委員長が言われた専門家というか、プランナーの活用を提案するしかないかな、と思うのですが。僕はやはり、住んでいる人たちや、店主がどのように盛り上げていくのか、知多半田駅前の事例もありますので、見据えた上で、行政主導型で行くとああいう風になってしまうのかな、という反省も踏まえた上でやっていければと思います。視察へ行くとしたらそういうことを把握できたらと思

ます。

○小出義一委員長

把握できてまとめたご意見を聞くような場がもてることが一番いいかな、と。勝手にこんなものがあつたよ、と議会だけでいうのではなく、非常に難しいと思いますが、成功事例があるのでしたら参考にさせてほしいという方も少なからず、見えると思いますので。

○岩田玲子副委員長

榊原委員の話はその通りだと思うのですが、JR半田駅前で聞いたのが、住民の人が半田市のJR高架に合わせた整備があるから、どういう風に自分たちの家を修繕などしたらいいかわからない、とりあえず何もせずに過ごしている、という状況がありました。その中で、半田市がどういうことをやるかを示さないままに街がそのままとまってしまうと思います。住民の人の意識を個別に聞いた訳ではないので分かりませんが、半田市の方向性もあって、何もせずにいようかな、と思っている場合もあると思うので、半田市が、ここを保存します、この街並みを活かしたいですが、どうですか、ということで住民が動きやすくなると思います。

【発言するものあり】

○中川健一委員

細かい話ですが、区画整理の対象地域が縮小されたことは地元で説明会はやったのでしょうか。

○笠原建設産業部長

まちづくり勉強会では当然説明しています。市政懇談会でも説明しています。

○新美保博委員

なぜ縮小したの。

○笠原建設部長

知多半田の反省を踏まえて、事業期間が20年30年となってしまうので、少しでも小さくして、事業を早く完成するという目的です。

○新美保博委員

地権者が、さわってくれるな、とって狭めた話ではないか。

○笠原建設部長

そういう話ではないです。あくまでこちらの都合です。

○新美保博委員

分からないのよ。このあたりの人が何を考えているか。

○中川健一委員

それは10年間まちづくり勉強会をやってきていきなり縮小されたら、なんだ、と思う人もいるのではないですか。

○沢田清委員

逆に商店街の人たちで自分からお客を引っ張る努力をしているかたはあまりいないと思います。実は毎日山車祭りをやってほしい、と言われたことがありました。ということは、自分でお客をよんでいる状態ではないんです。

○笠原建設部長

ただ、商店街ありますので、例えばこの冬であればイルミネーションなど、いろいろやっ  
てはいるのですが、なかなか難しい状況です。

○沢田清委員

行政が大きいイベントをうつことによって自分たちが潤う、という考え方ですね。

○小出義一委員長

西郷先生の事例は、先生自身がやる訳では無く、どうやって仕掛けを作っていくのか、街  
並みとは関係ありませんが、例えば今治市にはテクSPORT今治というのがあり、帰省して  
くる大学生に夏休みの間にイベントをやってもらう、などいろいろアイデアはでてくるもの  
だな、と感心して聞いていましたが、今は活気を失っている現状はあるかと思いますが、ど  
うしたら引っ張っていけるようになるかいろいろ事例を知って見える方なので、そういうか  
たがりードをした長浜市などは参考になるかなと思います。

○中川健一委員

僕の個人的な意見ですが、J R半田駅前は今も商工観光課とか地元のTMHがイベントを  
ちょこちょこやっている訳です。でも全然人がいないんです。で、イベントのやり方が悪い  
とか、いいとかいうことよりも、街並み自体に魅力がないから、どんなイベントをやっても  
人が来ない、というのが実態だと思います。そこで、景観とか街並みを整備するともうちょ  
っと雰囲気が変わるのではないか、というのがここでの議論だと思います。

【発言するものあり】

○新美保博委員

僕はちょっと違うのですが、それをやらなきゃいけないのか、というところまで考えていな  
いと思います。みんながやってほしいと思っていない訳で、商売をしている人はいろんなこ  
とをしてくれれば人が来てくれて喜ぶかもしれませんが、住んでいる人はそんな風には思っ  
ていないかもしれない。イベントなどもいろいろやっているが地元の人それを求めている  
ない。それではやっても意味がないので地元で意欲があるのか。あるなら努力はするだろうし、  
言ってくるだろうと。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

中川委員の言ってみえる考え方とだいたい一緒なんです、の蔵のまち周辺は無機質なん  
です。近くに国盛、ミツカン、酔の里などの建造物があって、もうちょっと生活感のある空  
間に、ごちゃごちゃした、企業がやっているだけではなく、生活の伝わる、愛着がわくよう  
なものが形成されると思います。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

お金をかけるといっても文化庁の伝統的建造物群保存地区の補助を受けているところ以  
外でも活性化している例はありますので、それを探していくという、もちろん地区に指定さ  
ればいいですが、お金も全くかけずに、というのは無理な話で、改築するのに補助を出す  
必要もあるでしょうし。

○新美保博委員

補助金をもらう為に指定を受けてやるという話ではないでしょ。どうするの。残したい景観はなに。

○岩田玲子副委員長

駅から蔵のまちに続く通りだけでも景観形成重点地区にしてもらって、補助金をだすなどできればいいと思います。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

暫く休憩します。

午前 11 時 35 分 休憩

午前 11 時 46 分 再開

○小出義一委員長

会議を再開します。だいぶまとまってきました。エリアについては J R 半田駅から半田運河に向かう東西の御幸通り、新川通りも含めて、半田らしさを醸し出す景観づくりをしようという方向にまとまりました。できれば重点地区を拡張するという方向で考えていく。その為のどのように景観づくりをしていくのか、地元の方々が協力して景観形成をした事例を研究して進めていく、という方向でよろしいでしょうか。

○新美保博委員

御幸通り、新川通りもやるのなら、縦線もやっておいた方がいいのではないかと。銀座本町の通りと、ロイヤルハイツの通りです。今言っているのはブロックでは無く、通りでやろうということだったので。

○中川健一委員

確かに中組会所のところは雰囲気いいですからね。たぶん自腹でいい雰囲気にリフォームしている方が 2 件ほどあるんです。

○小出義一委員長

先ほどの御幸通りと新川通りと限定した発言をしましたが、そのうち南北にある銀座本町の通りと、中組会所前の通りも含めて、囲まれた部分を重点地区と拡張するようにかんがえていきたいということよろしいでしょうか。

【「はい」との返事あり】

○小出義一委員長

ありがとうございました。それではもう少し具体的にこんな事例があるということをおみなさんと共有しながらどういったところを学ぶべきか、検討し今後の進め方を決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【「はい」との返事あり】

○新美保博委員

日程などの前に確認しておきたいことがあります。最初に考えなくてはならないのが景観重点地区の拡大。あくまでもモデル地区、半田市のモデルであるということを確認しておき

たい。

○小出義一委員長

もう一度確認します。重点地区を拡大しようという方向で当委員会調査をしていましたが、他にも重点地区はあります。ここだけについては今回調査にあたってのモデルと限定した中で進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

【「はい」との返事あり】

○小出義一委員長

ありがとうございます。それでは次に事例を含めてみなさんにどういったところを研究課題とするのかご意見を聞く為に次回の日程を調整したいと思います。

暫く休憩します。

午前 11 時 51 分 休憩

午前 11 時 53 分 再開

○小出義一委員長

会議を再開します。

次回の委員会ですが 11 月 26 日 13 時からということによろしいでしょうか。

【「はい」との返事あり】

○小出義一委員長

それではその他なにかありますか。

【発言するものなし】

○小出義一委員長

ないようですので本日予定しました議事は全て終了しました。本日の委員会はこれで終了します。ありがとうございました。

午前 11 時 55 分 閉会